

がんをもつ在宅の療養者の生活支援に住民が参加する仕組み を作りました

(CPL-CCP system : Community residents Participating in Livelihood support system for Community-dwelling Cancer Patients)

<看護福祉学部 看護学科 教授 竹生礼子>

研究目的:在宅がん療養者に対する住民が参加できる生活支援システム(以下システム)を考案しました。
実際に2つの地域で運用してさらに改善したシステムを提案しました。

対象地域:北海道内

都市地域(市)

人口190万人
ボランティア人口4万4千人

郊外地域(町)

人口1万8千人
ボランティア人口1200人

研究方法:北海道の特徴の異なる2つの都市と郊外地域の実践者とともに、在宅がん療養者の生活支援に住民が参加できるよう活動し、一緒に評価を行いました。さらに他の地域に共通して使えるシステムを考案しました。



住民が集まって話し合っています



支援者養成の講習会
医師や看護師が講師



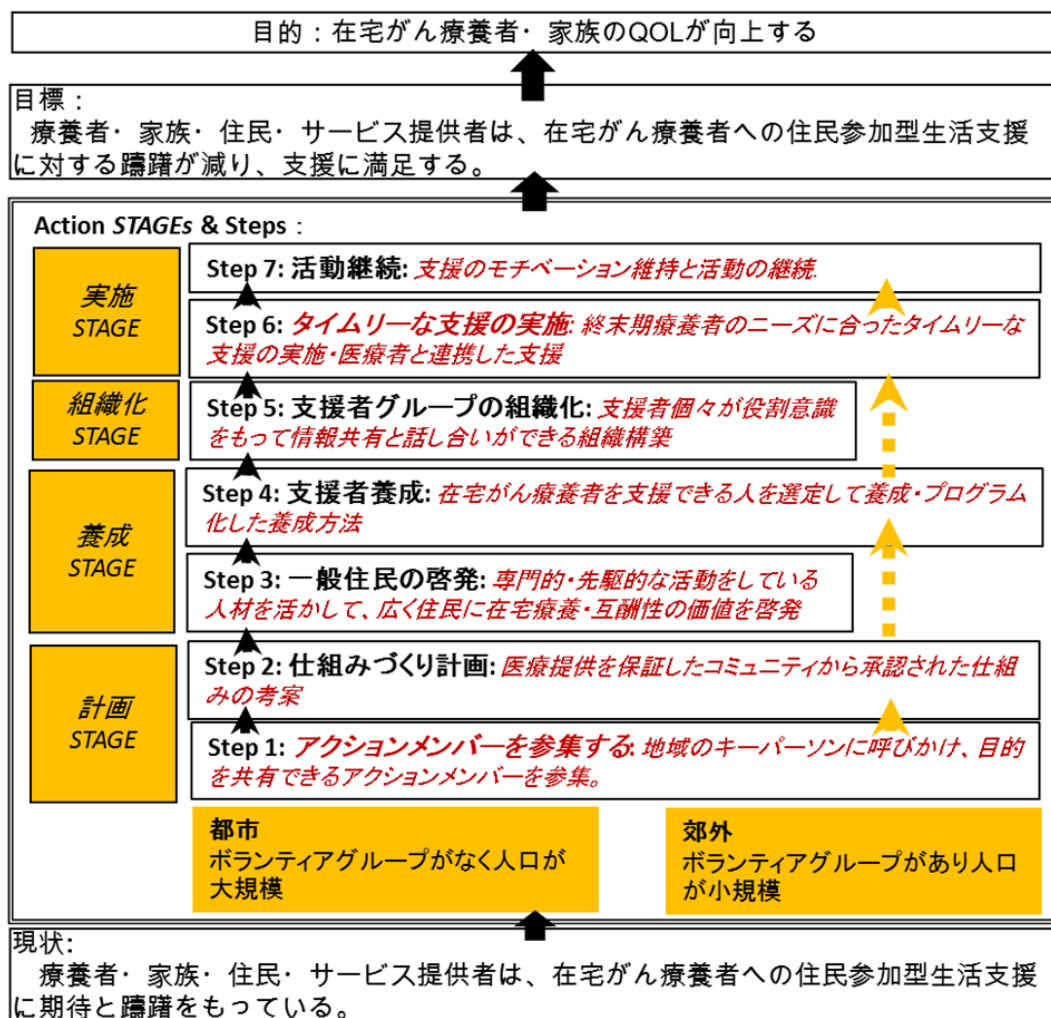
援助方法の学習中

この研究手法を
参加型アクションリサーチ*
といいます。

*研究者は実践者と共同で研究・実践をすすめます。プログラムの展開や評価にコミュニティを巻き込んで、社会を変化させることを目指すものです。得られた発見は、他の地域で応用できる可能性があり、新しいプロジェクトに特に適しているといわれています。



がんの療養者さんと住民がお花見にお出かけ
在宅ホスピスボランティア葉っぱの会



在宅がん療養者に対する住民参加型生活支援システム

community residents participating in livelihood support system for community-dwelling cancer patients (CPL-CCP system)

●Stepに沿って進めることにより、これまでに住民が在宅がん療養者の生活支援を行う仕組みのない2つの地域において支援の準備ができました。

●1つの地域では、Step 1 をスタートしてから約1年半後から実際に一般住民ががんをもつ在宅療養者の支援を行うことにつながりました。

●システムを運用する上で、地域の人口規模や特性により調整すべき手順がありました。

●地域住民の互助の力による在宅がん療養者の生活支援が可能です。